

戦争の引金ひく「グレーゾーン」

高作さんの話から

「立憲主義」か「独裁」か もはや「集団的自衛権」の問題ではない！

これがレジユメの表題でしたが、その中で「離島等における対処」などをグレーゾーンと称し、自衛隊出動を合法化することの決定的違いに触れていました。

警察・海上保安庁の場合、逮捕・勾留・裁判など含め、その対処には前提として相手に基本的人権がある。自衛隊にその建前はない、相手は「敵」であり何をしてもいいという話でした。

公明党を抱き込むためのグレーゾーン概念はペテンです。自衛隊が出動す

ることは、例えば中国の漁民を「敵」とみなし、軍事力で捕らえ捕虜にするか、殺すか、ということですよ。戦争、その引き金を引く、そして仕返しもある、ということとイコールではないでしょうか…。

自律した労働者・市民の

草の根からの闘いこそ！

参加者も含め、皆さんの実践的結論はこれだったと思います。ひとりひとりが考え行動し集団的自衛権－戦争とめよう！



＜ 教 育 交 流 ＞

一 民 族 教 育 に ふ れ て

一般公開授業

在日朝鮮、韓国の子供たちが通う「朝鮮学校」とは、どんな学校なのでしょう？
どんなことを教え、どのように学んでいるのでしょうか？本校に、「来て」、「観て」、「聞いて」みませんか？
今年は、日本人講師の特別授業もあります。多くの方々のお越しを心よりお待ちしております。

日 時： 2014年 6月 29日(日)

朝鮮学校現行教科書展示
初級・中級・高級

会 場： 南大阪朝鮮初級学校 (大阪市住之江区北加賀屋1-11-1) ☎06-6685-6505

資料代
¥500

日 程： 10:00 授業(保育)公開 (日本人講師の特別授業があります。)(校舎1階～3階)

11:00 感想会(校舎4階) 学父母のアピール等

12:15 交流会(焼肉パーティー:会費制・焼肉+ビール1本=2,000円)(運動場)



【主催】南大阪朝鮮初級学校アプロハムケ・南大阪朝鮮初級学校

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

安倍の暴走許すな 集団的自衛権いらない！

安倍首相は「集団的自衛権行使容認」を今国会中に（6月22日まで）閣議決定すると指示。公明も含むたった19人の閣僚で、歴代政権の「憲法上、集団的自衛権行使はできない」という解釈をひっくりかえそうとしています。

6月1日阿倍野区民センターで『STOP安倍』6.1シンポジウムが開催され、難波までデモを行いました。強気が焦りか、この安倍の暴走ぶりは何?!その背景と根拠は?何を狙っているのか?暴走を止めるために今私たちは何をすべきか~これがシンポジウムのテーマでした。

パネラーはこうけつ 瀬織厚さん（山口大学教授）、たかさく 高作雅博さん（関西大学教授）、永嶋靖久さん（弁護士）、服部良一さんがコーディネーター。

戦前から戦後の流れと日本の民主主義について、アジア・世界との関係史、内外メディアの安倍評価、経済の行き詰まりとの関係、労働者・市民の状況と意識、橋下人気やヘイトスピーチが生まれる土壌と根拠、集団的自衛権とは何か、「立憲主義」と「独裁」、戦争準備と治安法との関係など等、多岐にわたる視角から報告と提起が行われました。

特に印象に残った中から一部紹介します。闘いのヒントになればと思います。

保守支配の危機—国家主義で突破
瀬織さんの提起とレジュメから
戦後民主主義は天皇制民主主義。それに便乗し、対米従属関係と高度経済成長を背景に権力を維持してきた保守支配層。

それが行き詰まっている。安倍は危機を痛感し「対米自立」志向をはらむ日米同盟強化と国家主義で突破を試みている。

集団的自衛権行使への踏み切りは「日本が盾、アメリカが矛」の関係から「日本が矛、アメリカが盾」への可能性

日本に民主主義は根づいていない。今は右傾化ではなく地肌が出ただけ。

日本人は政治の感覚と責任が希薄。独裁者や英雄への無条件・無意識の賛美、他者依存型の思考様式が定着してきた。自由・自治・自律観念が薄い。これが橋下を許容。日本社会自体の間直しが課題。

ヒトラーが支配の為に重視したのが青年。今、社会への苛立ちとあきらめの中で、「強き者」に従属する喜びにとらわれている青年層が存在する。彼らに届く護憲論を。

軍拡の連鎖を断ち切り、アジア民衆との連帯、共生を。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！